

2024 Vol.3 へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW next』及び『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは、
『VIEW next ONLINE』(<https://view-next.benesse.jp/>)でご覧いただけます。

●特集の有識者提言では、東北大学大学院の青木栄一教授の、仕事の内容が「自律的か他律的かで、ストレスが大きく異なる」という意見に共感しました。私も管理職を務めていた時、勤務時間が超過していることを忘れるほど自律的に職務にのめり込んだ後に感じる心地よい疲労を「積極的疲労」、意味を感じられずに嫌々取り組んだ後に感じるなかなか取れない疲労を「消極的疲労」と呼んでいました。管理職が取り組むべきは、いかにして教職員が感じる「消極的疲労」を軽減していくかだと考えます。(鳥根県)

●特集の東京都葛飾区教育委員会の事例で紹介されていたデジタルテストは、採点業務の効率化に有効だと考えました。ただ、教員としては、採点を通じて子ども一人ひとりの理解度を確認してきたという自負があり、デジタルによる採点でそのような見取りができるのか、不安も感じました。(北海道)

●特集の兵庫県宝塚市教育委員会のICTを活用した取り組みが参考になりました。働き方改革の視点だけでなく、授業改善も目的とした取り組みである点がユニークだと思いました。(鳥根県)

●特集の兵庫県神戸市教育委員会の取り組みとして紹介された部活動の地域移行について、その推進には教員と保護者の意識改革が重要になると考えます。これまでのように、大会などで上位の成績を収めることを求め、それを目標として活動するという意識を変えるところから、部活動の地域移行はスタートすると思います。そのためには、行政の強いリーダーシップと継続的な支援が欠かせないでしょう。(岡山県)

●特集を読み、急速に進む働き方改革の中で、一度立ち止まってこれまでの取り組みを検証すべき時期にあると感じました。学校を訪れると、以前は多くの教職員が働いていた夕

刻に見られる人の姿は減りましたが、非公式な場で話すと、退勤時刻が決められていて、退勤したことにして仕事をしているといった話も聞きます。報告される数字だけでなく、現場の実態を聞き取る必要があると感じます。(新潟県)

●連載「教育長の視点～その先にあるもの～ダイジェスト」を読みました。教育長が、あれもこれもではなく、その年度やある期間に重点的に取り組むべき方針を分かりやすく打ち出せると、いろいろなことに手をつけて中途半端になってしまうことが減るのではないかと感じました。(茨城県)

●連載「教委の新規事業実現までのストーリー」の新潟県三条市教育委員会の事例は、ICT支援員の導入が参考になっただけでなく、「三条市授業スタンダード」を大事にしているところがよいと感じました。しっかりしたスタンダードがあり、各学校に共有され、浸透することで、最終的に目指すものが明確になり、導入の効果が出るのだと思いました。(新潟県)

●連載「データで教育を読む」の「新学習指導要領の実施以降、英語を『好き』な子どもが大幅に減少」を読み、「そうってしまったか」という思いを抱きました。外国語の教科化により、外国語に慣れ親しむという理念が失われてしまったことを、今さらながら感じる結果ではないかと思えます。(愛知県)

●連載「教育×シティプロモーション 先進事例紹介」の岩手県北上市の取り組みが印象に残りました。私の居住地域も消滅可能性都市と言われ、人口減少への対応が課題です。北上市は、大学設立により企業誘致と工学系の学生の育成を構想している点に先見の明を感じました。私の居住地域でも、大学設立は難しくても、人が集まり、人を育てるよい方法がないかと思案しています。(岐阜県)

編集後記

茨城県境町の町長を取材した際、子どもが英語で町を紹介する動画を見せていただきました。隈研吾氏が設計した建物や東京五輪で使用されたBMXの施設、町を走る自動運転バスなどを誇らしく紹介していました。人口約2万人の同町では、町長を先頭に大人が次々と問題を解決し、獲得した予算を惜しみなく子育てと教育に投資しています。その大人の背中を見た子どもは、きっと「未来は自分たちで創ることができる」と信じられるのだらうと思いました。(齋藤)

VIEWnext 教育委員会版 2025 Vol.1

2025年6月18日発行/通巻37号

発行人 田村隆憲 編集人 柏木 崇
発行所 株式会社ベネッセコーポレーション 学校カンパニー
VIEW next 編集部
〒163-0415 東京都新宿区西新宿 2-1-1
新宿三井ビルディング
印刷製本 研精堂印刷株式会社
編集協力 有限会社ベンダコ、株式会社オンソノ
撮影協力 谷口 哲、ヤマグチインキ ©Benesse Corporation 2025

※次号の発刊は、2025年10月を予定しています。